

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8231
担当部課名	保健福祉部	地域医療	課	地域医療 係
事務事業名	地域医療事業（高度医療機器共同利用事業）		事業コード	12310

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第3節	市民医療の充実	2年度
施策名	第1施策	地域医療体制の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

高度医療機器共同利用事業補助金交付要綱

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象（誰、何）	
医療資源の有効活用及び地域医療の向上を図るため、相模原南がけ加センターに設置されている高度医療機器（MRI・CR等）を地域の医療機関が共同で利用する事業に対して助成を行っている。		市民全般	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
MRI（磁器共鳴映像装置）、CR（デジタルX線画像診断装置）及びホルター心電計を医療機関が共同で利用した。利用方法としては、MRIは地域の医療機関からの紹介により、南がけ加センターで撮影を行い、医療機関へ結果を送り、診療・治療を行うもの、また、CRについては、医療機関でデジタルで撮影したものをCR装置により、フィルム化するもの。 MRI 稼動日数 232数 件数 1,954件 CR 稼動日数 239数 件数 15,891件 平成13年度補助額 16,801千円		医療機関の充実 多様化、高度化する医療需要に対応できる医療供給体制の整備促進	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～年度

4 評価指標

指標名	MRI利用率	CR利用率	MRI稼動率
指標式	各年度のMRI利用件数 / 各年度の人口 × 100	各年度のCR利用件数 / 各年度の人口 × 100	各年度のMRI稼動日数 / 各年度の稼動予定日数 × 100
指標設定の意図	MRI利用件数の実績により、その成果を表す	CR利用件数の実績により、その成果を表す	MRI稼動実績により、その成果を表す

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度（評価対象年度）		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	0.3	0.3	a 0.3	b 0.3	0.3	
指標	2.5	2.4	c 2.6	d 2.4	2.6	
指標	98.3	100.0	e 100.4	f 100.0	100.0	
事業費	決算（予算）額	16,211	17,863	16,801	16,801	13,746
	人員・時間数	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)	(0.1人)
	人件費	842	842	842	842	842
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	17,053	18,705	17,643	17,643	14,588
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 102.9%
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	

$\frac{a}{b} = \frac{0.3}{0.3} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} = \frac{2.6}{2.4} \times 100 = 108.3\%$	$\frac{e}{f} = \frac{100.4}{100.0} \times 100 = 100.4\%$
--	--	--

理由： 各医療機器の利用率、稼働率とも高く、医療機関が積極的に利用されていることから、事業の成果は現れていると考える。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 B ▼	A : 適応している	理由： 病院、診療所双方の医療機関が積極的に利用しており、市民の病状の早期発見に役立っている。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 B ▼	A : 妥当である	理由： 高度医療機器は、金額的に高価なものであり、費用対効果を算定するのは難しい。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由： 本事業は、市医師会の補助事業であり、現状の仕組みで今後とも実施していくことが最良と考える。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由： 本事業を実施していることにより、診療所等でも各種検査が実施できているため、満足は得られていると考える。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由： 保健・医療を今後とも推進していく上では、よい施策と考えられる。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 各医療機関での導入割合などを勘案すると、今後大幅な向上は見込めないと考える。しかしながら、市民にとっては、必須な事業と考えられる。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 各機器とも高価なため、あまり改善はできない。</p>

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較	説明
<p>自前では購入できない医療機関等に対し、共同で医療機器を利用することにより、病気の早期発見に役立つことなど、本事業の役割は地域医療に対し、貢献していると考えられる。</p>		

8 二次評価における変更点